

ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第1回〕

『弦が揺れると、僕は季節の風になる』

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

初めまして。33歳、この世の食べ物でお茶漬が一番好きなヴァイオリニスト、TAIRIKUです。

TSUKEMENというヴァイオリニスト二人一台のグループで活動しています。

この度、上質で知的な教養誌『美楽』さんにご縁を頂けたことをとても光栄に思っています。歌詞の無いインストゥルメンタルの世界で生きる僕が、日々感じることを踏み込んで書いていたらと思っています。

ヴァイオリンとピアノは最も難易度が高い楽器と言われます。早くて2歳、遅くとも7歳までには始めないと世界レベルになるのはほぼ不可能。

モノにするには膨大な練習と労力が必須な為、幼少期には親がつきつきりになります。

「ソリスト」という光り輝く頂を目指して多くの方がしのぎを削り、辿り着けるのは何万人に1人。

あまりの超低確率にまるで精子にもなった気分です。

日本で最高峰の大学(芸大や桐朋)を目指し、狭き門をくぐり抜けてます。思うことは

「うおお、入ったぞ！これでプロになれるぞ」

そしてすぐ現実を知り、こう思うのです。

「…生きていけるかな…」

無理ありません。ヴァイオリンの場合、職業はほぼ5つに分けられ、どの道も過酷だからです。

①ソリスト ②オーケストラ ③スタジオミュージシャン ④講師 ⑤フリー演奏家

(ちなみに、収入のしつかりしたオーケストラは数年に1人程しか空きが出ず、倍率は100倍以上です。)

演奏家は育てるのも大変、育ったあとも大変。ハイリスク、ほぼノーリターンの世界なのです。

しかし。

全国を演奏しながら旅をして感じることは、心の拠り所が枯渇しているこの時代、みんな泣ける場所を探している、敏感な感性を刺激して、色々感じ

たい人が世の中に溢れている、ということ。です。

幅広く色んな人に興味を持ってもらいたい。より深く掘げるために一体何が出来るか、そして、感動を発信していく演奏家もつと実力を活かせるよう、ビジネスのパイプをしつかり繋いでいくというのも僕の夢の一つです。

自分のできる範囲のことを、髪の毛一本分だけでも背伸びしてやりながら前に進んでいきたいと思っています。



profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。
2010年キングレコードからメジャーデビュー。
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。